

愛知県感染症情報

平成 12 年第 13 週 (3 月第 5 週)

(コメント)

感染性胃腸炎及び水痘は、依然流行しています。感染性胃腸炎の年齢別では 1 才が最も多く、全体の 2 割を占めています。

(先生方からのコメント)

- ・ ブラジルの託児所でマイコプラズマ肺炎の子供が3人いました。
(豊橋市 医療法人こどもの国大谷小児科)
- ・ 百日咳2人 (抗体上昇) は兄弟、D P T (三種混合) 歴なし。特徴的な咳嗽はなかった。
(豊橋市 富田小児科)
- ・ 2例ロタウイルス腸炎あり。感冒性胃腸炎が目立ちました。
(田原町 かわせ小児科)
- ・ 帯状疱疹 3 才
(幸田町 とみた小児科)
- ・ 特別な流行なさそうですが、白色便の下痢まだけっこういます。
(岡崎市 花田こどもクリニック)
- ・ カンピロバクター2名 (1 才男、3 才男)
(岡崎市 にいのみ小児科)
- ・ 病原性大腸菌 0-1 VT1、VT2(+) 2 名 (10 ~ 14 才男、20 才以上女)
(知立市 近藤こどもクリニック)
- ・ 病原性大腸菌 0-86a 2 才女、0-114 7 才男、0-6 2 才男、0-148 2 才女
(豊田市 田中小児科医院)
- ・ 幼児、学童、成人ともにマイコプラズマ感染症目立ちます。嘔吐、下痢少し減少してきました。その他目立った感染症はありません。
(尾張旭市 医療法人誠和会佐伯小児科医院)
- ・ A 型インフルエンザ 3 名
(瀬戸市 津田こどもクリニック)
- ・ 4 才男児下痢便より MRSA (+)
(新川町 三輪医院)

- ・ ロタウイルス胃腸炎やや減少するも現在の感染症の主体です。入院例も多し。他に溶連菌感染症が少数有り。
(小牧市 小牧市民病院)
- ・ 久しぶりに6才女子の麻疹1例来院
(志水こどもクリニック)
- ・ 伝染性単核症 1才男
(鈴木小児科)
- ・ 1才男児、2才男児マイコプラズマ肺炎がみられました。溶連菌感染症、水痘、手足口病の流行が続いています。
(かちがわ北病院)
- ・ 病原性大腸菌感染症2人(0-15 2才6ヶ月男 0-18 37才女)
糞便アデノウイルス2名 1才男
糞便ロタウイルス 10ヶ月女
A群 溶連菌感染症 2才女
(尾西市 城後小児科)
- ・ 急性胃腸炎発熱を伴うもの多し点滴2日間の例多い。CRPはほとんど(-) 溶連菌感染症多くなりました。
(岩倉市 なかよしこどもクリニック)
- ・ 感染性胃腸炎が急増してきました。
(扶桑町 いずみ内科)
- ・ 感染性胃腸炎、溶連菌感染症ともに減少してきています。
(江南市 みやぐちこどもクリニック)

(1~3類感染症の発生状況)

細菌性赤痢患者1名。

- ・ 岡崎保健所管内在住の61才女。3/25発病、3/27初診、3/30診定。
菌型は、フレキシネル4a。

腸管出血性大腸菌感染症患者1名。

- ・ 瀬戸保健所管内在住の26才女。3/22発病、3/23初診、3/28診定。
菌型は、0-157 VT1、VT2(+)

(全数把握の4類感染症の発生状況)

レジオネラ症患者1名。

61才 男。

第 11 週（平成 12 年 3 月 13 日～3 月 19 日）の 4 類感染症の全国状況
インフルエンザの定点当たり報告数は前週を更に下回り、今シーズンの流行はほぼ終息したと考えられる。A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎、感染性胃腸炎の定点当たり報告数が例年の同時期より多い。感染性胃腸炎は患者報告数が急増しており、過去 10 年間で最大の流行曲線を描いている。患者の年齢階級別で見ると、1 歳児と 2 歳児で全体の約 3 割を占め、ピークは 1 歳にある。麻疹は依然大阪府、千葉県、香川県で流行がみられ、患者報告数が多くなっている。非流行期の咽頭結膜熱と急性出血性結膜炎の定点当たり報告数が例年より多くなっている。

（ Infectious Diseases Weekly Report より抜粋

厚生省感染症研究所感染症情報センター感染症情報室提供）

平成 12 年 3 月 27 日

愛知県新興再興感染症対策協議会（文責 磯村）

2000 年 2 月 11 日号（75 巻 6 号）

集団発生：シエラレオネの赤痢。WHO と NGO の国境なき医師団や国際救急医師団の共同作業による対策が進められているが発生規模や流行状況の把握は十分でなく（注：同国は政府軍対反政府ゲリラの深刻な内戦中）、菌培養の技術移転と材料収集方法の確立も端緒についたところである。

天然痘ウイルス：99 年 12 月、国際会議がジュネーブで開催。天然痘が根絶した現在における実験室内ウイルス株の保管、ウイルス DNA の研究と免疫血清・抗ウイルス剤の保管と供給、動物実験法について討議、勧告が発表された。

インフルエンザ：98 年 10 月～99 年 9 月の世界の状況。98 年 10 月から始まった流行は 98 年 12 月～99 年 3 月に最高となり最初は A (H3N2) 型、99 年になって B 型が主体であった。全世界の詳細な一覧表が掲載されている。

インフルエンザ（99 年末～00 年 2 月）：アルバニア、クロアチア、ラトビア、ルーマニア、スロバキア。いずれも A 型（H3N2）。

2 月 4 - 10 日届出。コレラ：ザンビア、インド。ペスト：米合衆国。

2000 年 2 月 18 日号（75 巻 7 号）

集団発生：コンゴ共和国のウイルス性出血熱 / マールブルグ病。コンゴ共和国東部のドルバ地方の金鉱労働者に散発的に発生中。30 歳男性患者がウイルス学的に確定。他に 15 例の疑似患者の発生報告あり、ウイルス検査は陰性であった。

結核：イングーシ共和国。隣国のチェチェン共和国からの難民に集団発生。元来旧ソ連から独立した北コーカサス諸国では結核の蔓延が問題となっていたが、今回の内戦による難民で人口の過密化、医療施設・設備不足、アクセスの悪さから急増、新規患者が 65～80 / 10 万人 / 年間という状況となり WHO が各国際機関と対策にあたっている。

サルモネラ感染症の死亡例：デンマーク。00 年 1 月、44 歳の父親と 18 歳の息子。発熱腹痛下痢の後、意識障害・死亡。S . エンテリチデスのファージ型 6。ケーキの原料の卵の汚染と思われる。WHO は世界的なサーベイランスを開始した。

中国・青海省のポリオ野生株によるポリオ：99 年 10 月。16 カ月男児の麻痺性ポリオ患者から 1 型野生株ポリオウイルス分離。インドからの野生株ウイルス輸入と思われ、当局は地区全体に集中的な生ワクチン接種活動を展開。青海省という僻地にかかわらず、症例の的確な把握とウイルス検査網の正確さは中国におけるサーベイランス確立状況の優秀さを示すものであり、同時にポリオ対策の維持の必要性を示す事例であった。

インフルエンザ：本年 1 月。ドイツ（B / 北京）。ロシア（A / H3N2）、スペイン（A / H3N2 と A / H1N1）、チュニジア（A / H3N2 と B / 北京）、ウクライナ（A / H3N2 と A / H1N1、一部 B）。

2 月 11～17 日届出。コレラ：インド。

2000 年 2 月 25 日号 (75 巻 8 号)

集団発生：中央アフリカの髄膜炎菌性髄膜炎の多発。99 年 10 月以降増加。86 例が届出られ 14 例死亡。発生地区のワクチン接種と発生状況の監視が WHO の指導で実施。

(注：サハラ砂漠南縁の髄膜炎菌常在国の一つ。例年この季節に流行、ワクチン緊急接種などが実施され、アラブ各国への輸出例など話題となっている)。

インフルエンザワクチン：最近の流行株の抗原性を基本にした 2000 年～2001 年流行期用のワクチン組成についての勧告。A 型/H3N2：99 年流行の A/モスコウ/10/99 (H3N2) 株を従来のシドニー株より抗体獲得の面から推薦。A 型/H1N1：99 年流行の A/ニューカレドニア/20/99 (H1N1) 株を従来の北京株より抗体獲得の面から推薦。B 型：最近の流行株に変異が認められないので従来の北京株を推薦。

インフルエンザ (00 年 2 月)：ベラルーシ、クロアチア、デンマーク、ドイツ。いずれも A 型 (H3N2)。

2 月 18～24 日届出。コレラ：コンゴ共和国、ガーナ、ケニア、マダガスカル、マラウイ、タンザニア。黄熱：ブラジル、オランダ (輸入例。32 歳男性。黄熱ワクチン未接種者。南米スリナムに 4 週間滞在)。

2000 年 3 月 3 日号 (75 巻 9 号)

集団発生：フランスのリステリア症。99 年 12 月後半から 26 例の報告 (死亡 7 例) あり、リステリアの潜伏期 (最大 2 カ月まで) から今後も増加が予測される。原因は同菌に汚染された豚肉 (タン) の入ったゼリーが、対照群をおいた喫食調査から推測されているが、パスツール研究所を中心に検索中。食品汚染によるリステリア症の重要性は世界的な分布の広さと死亡率の高さ (20～30%) から注目され、コンビニ食品による感染の監視が国際的に急務となっている。

ポリオ撲滅のための世界のウイルス検査網：97～99 年。ポリオ根絶計画を推進するにはポリオ様急性弛緩性麻痺患者からのウイルス分離、同定、型内鑑別 (野生株かワクチン株か) 検査網の確立と維持監視が必要となる。本報告は世界各地における標準検査室・研究所の分布 (世界全体で各国の国立研究所 126 カ所、WHO の地域担当研究所が 16 カ所、高度の研究担当が 6 カ所) と役割分担が紹介されている。

インフルエンザ：本年 2 月。ユーゴスラビア共和国、アイスランド、ノルウェー、ポーランド、ポルトガル、スイス：各国とも A 型/H3N2 が主流。発生が峠をこえた地区が多い。A/H1N1、一部 B)。

2 月 25～3 月 2 日届出。コレラ：マダガスカル。